本年も「イネ縞葉枯病」「ヒメトビウンカ」の防除対策を必ず実施しましょう!

【注意】「彩のかがやき」「彩のきずな」は縞葉枯病に抵抗性ですが、ヒメトビウンカの増殖を抑える効果はありません。ヒメトビウンカの防除は必要です。

イネ縞葉枯病は、「ヒメトビウンカ」が媒介するウイルス病です。

発病株は「ゆうれい症状」(左)や、出穂の異常・不稔(右)を起こして減収します。



媒介虫ヒメトビウンカ (成虫の全長:3.5~4mm) 上段左: ♂成虫、右: ♀成虫、下段:幼虫 ※ウイルスは卵を通じて次世代に引き継がれ、翌年 に持ち越されます。









防除のポイントは育苗期から移植時!

育苗期

- ○イネ科雑草はウンカ類の棲息場所となりますので、育苗場所周囲の除草を行います。
- ○できるだけ播種時に薬剤を 処理します。
- 〇ウンカ類の飛込みを避けるため、苗箱は寒冷紗等でトンネル状に被覆します。
- ○播種時に薬剤を使用しな かった場合は、被覆を外した らただちに薬剤を処理します。

播種・育苗時~移植時 箱粒剤を使用して必ず防除!

防除薬剤の例 (銘柄)	薬剤の 成分数	使用時期	処理 <u>量</u> (60cm×30cm× 深さ3cmの育苗箱、 培土約5%)	対象病害虫				
				ウンカ類	フタオビ コヤガ	いもち病	紋枯病	内穎 褐変病
アドマイヤーCR箱粒剤	1成分	播種時(覆土前) ~移植当日		0				
ワンリード箱粒剤08	1成分	播種前、播種時覆土前~ 移植当日		0				
ルーチンアドスピノ箱粒剤	3成分※	播種時(覆土前) ~移植当日	50g/箱	0	0	0		〇 (移植当日)
エバーゴルフォルテ箱粒剤	3成分	播種時(覆土前) ~移植当日		0		0	0	
フェルテラチェス箱粒剤	2成分	播種時(覆土前) ~移植当日		0	〇 (移植3日前~ 移植当日)			

※ルーチンアドスピノ箱粒剤:化学合成農薬としては2成分。

【薬剤の登録内容は平成30年3月28日現在】 <u>必ず、最新の登録内容を確認の上、使用してください</u>

本田期および収穫後

- ○箱処理薬剤の残効は、銘柄によりますが移植後おおよそ40~60日です。 その後、多発の懸念がある場合は追加防除を行います。
- 〇収穫後の刈株および再生株はヒメト ビウンカの棲息場所として重要です。 速やかに耕うんし、稲株をすき込こん で枯死させます。
- ○再生株での発病も広く見られます。 放置すると媒介虫がウイルスを獲得 する割合が高まります。

5月 3月 4月 6月 フ月 8月 上旬 中旬 下旬 上旬 中旬 中旬 上旬 中旬 上旬 中旬 上旬 中旬 下旬 下旬 上旬 下旬 下旬 下旬 ヒ 収穫後速やかに稲株をすき込み メ (普通植・麦あと栽培) 育苗期対策 移植時防除 第3世代 1 第2世代 成虫 ビ (早植栽培) 育苗期対策 移植時防除 ゥ 成虫 ン 第1世代成虫 カ 育苗期対策 (早期栽培) 移植時防除 (苗-本田) 第2世代 第3世代 മ 幼虫 幼虫 発 越冬世代幼虫 生 第1世代幼虫 (畦畔•休耕田) 消 (麦類・雑草) 長 越冬世代成虫 必要に応じて追加防除

平成30年3月作成•埼玉県

写真・埼玉県農業技術研究センター